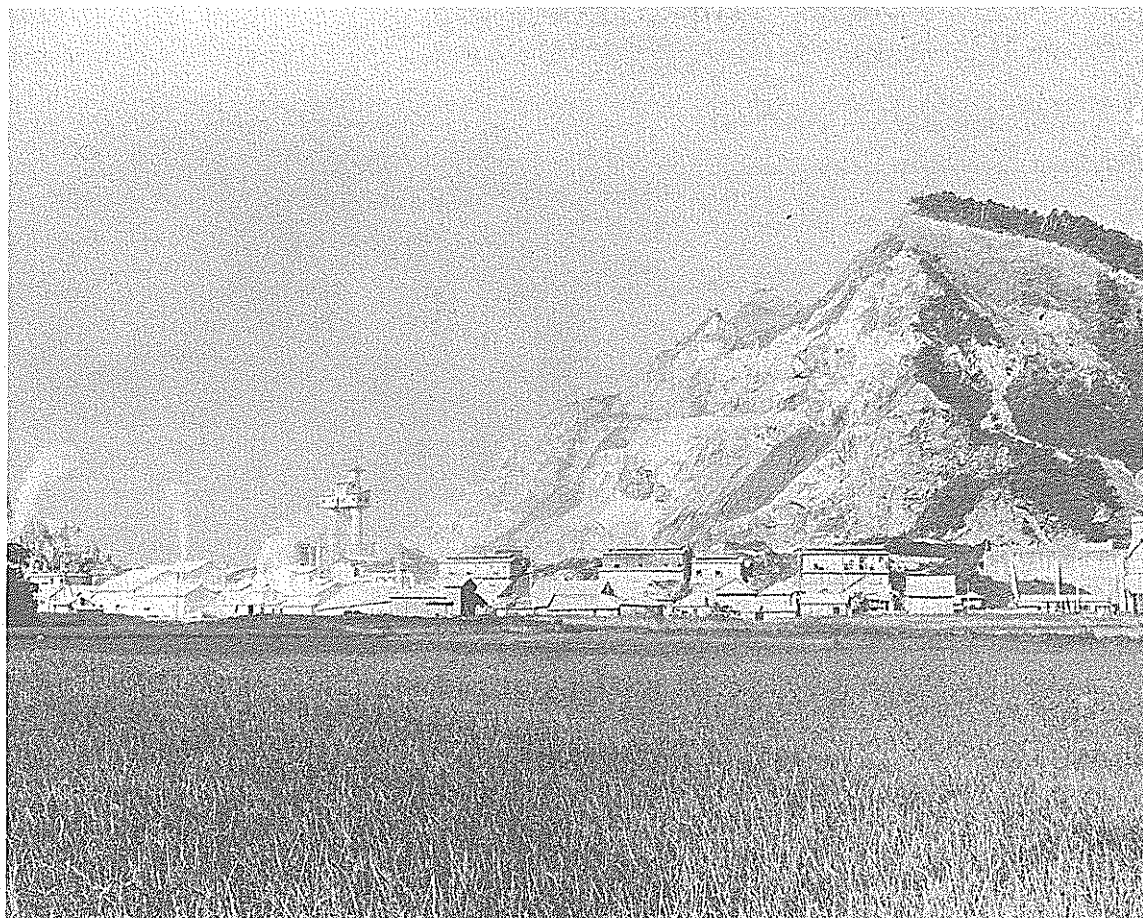
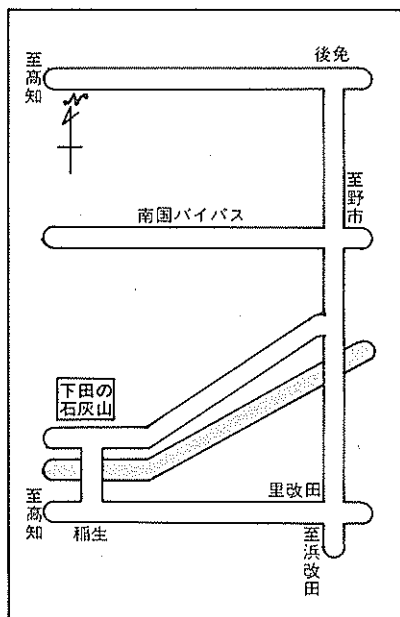


史跡・文化財めぐり⑰（下田の石灰山）



——とじておくと便利です——



土佐で石灰の製造のはじまったのは、慶長年間（1596～1614）のことであるが、当時は貝殻を焼いて作っていた。その後いつのまにか、石灰を焼いて作るようになった。

くだって文化年間（1804～1817）阿波の人徳右衛門が、四国遍路の途中に下田で行き倒れ、土地の人の世話で元気回復、恩返しに石灰焼きの新しい方法を伝えた。徳右衛門型というかまどがこれである。下田で石灰の製造が盛んになったのはこれからである。

広報 **なんこく**

10/15 1976 No.228

編集・発行／南国市広報委員会